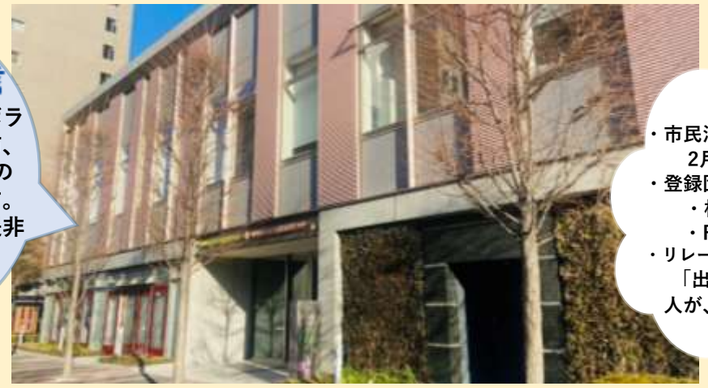
小山市市民活動センター
コミュニケーションペーパー
おやま～る
17号
2022年2月



おやま～るの一言
センター内には、ボランティア団体、小山市、おやま～る、助成金の情報を掲示しています。情報収集としても、是非気軽に足を運んでみてください！

もくじ
・市民活動センターからのお知らせ
　2月と3月の催事
・登録団体紹介
　・根っこの会
　・RUN伴とちぎ　小山エリア
・リレーコラム
　「出来るときに、出来る人が、出来ることをする」

リレーコラム
出来るときに、出来る人が、出来ることをする

私のボランティア活動のきっかけは、「東日本大震災」です。2011年3月11日、小山市内でも尋常でない程の縦揺れ横揺れの地震を感じ停電もあり、余震の続くなか携帯電話のネット情報を頼りに不安な夜を過ごしたことを覚えています。翌朝、ニュースで今まで見たこともないような津波の映像が目に飛び込んできて、死者・行方不明者や津波被害で孤立した避難生活を余儀なくされている方々の話題を毎日のように見聞きしているうちに、何か役に立つ活動ができないかと模索し、3月26日、27日に小山市内で募金活動に参加しました。そのお金は赤十字に寄付することができましたが、果たしてそのお金はいつ？どのような形で？被災者の手元に届くのだろう？と疑問を持ち、直接被災者に届ける活動に切り替え、震災から丁度50日目の4月29日に宮城県気仙沼に入り、炊き出し支援をしました。そこからがYAMBEのスタートです。

震災当初は、毎月2～3回炊き出し支援やガレキの撤去作業に漁業支援などをして活動範囲も気仙沼をはじめ、南三陸町、東松島、福島県南相馬市等多くの避難所に出向かせて頂きました。高速道路の無料期間が終わった2014年3月31日以降、ボランティアの数が極端に減りましたが、地元のイベントにも積極的に参加し、そこで得た資金を元に東北支援ができました。被災地でボランティア活動ができるのは現地で受け入れてくれる地元のボランティアさんがいるからです。大変ありがたく、また何としてもひと時の笑顔を取り戻してほしいと言う思いから必死に活動してきました。笑顔をお配りして元気を取り戻してもらおうと支援活動をしていますが逆に元気をもらって帰ってくることがすごく大きな原動力になってます。

毎月一回の東北支援を続けてきましたがコロナの影響もあり二年前から活動を自粛しています。何とか今年に入り自粛も制限解除され、お祭りやイベント等が復活してきて支援活動もやっと再開できてきました。懐かしい方々と顔を合わすことができ、笑顔で「おかえりなさい」と出迎えていただき、まさに絆で結ばれていると実感しております。月日が経つのも早く東日本大震災から12年が経とうとしております。小山市でも二回の水害がありましたがすんなりと支援に入れ家財道具やガレキの撤去に畳み出し、夕飯の炊き出し支援等限られた時間の中で活動でき周りとの調和も良かったと感じました。その時にあたふたせず自然と体が反応したのも、いくつもの災害現場に足を運んだからだと思います。いろんな方と「語り・泣き・笑い」の時間を過ごせたことが今となっては自分の宝物です。

ボランティア活動を長く続けるためには義務化にならず。無理をしない。自己完結を徹底する。他者に強制もしない。被災者に寄り添って要望を聞き、自分たちに出来ることをさせてもらう。そして自己満足にならない。いろいろな団体さんが思考を凝らして取り組んでいるので一概には言えませんが、それが長く続けるコツだと思っています。

合言葉!!「出来るときに、出来る人が、出来ることをする」東北支援はまだまだ続いていく通過点であるのでこれから先も支援活動を続けさせて頂きます。そして、一日も早い本復興を切にお祈りいたします。

（ゆめ評定 理事　速水 英幸）

コミュニケーションTOPICS

2月になり、春の暖かさが待ち遠しいですね。皆さんの今年度の活動は、どのようなものでしたか？おやま～るでは、活動を振り返り、みなさんと共に更に活動を充実させるアイデアを話し合う交流の場「おやま～るdeダイアログ」を開催します！

活動目的を振り返ると

今年度も残すところ2か月となりましたね。NPOのみなさんも、来年度に向けて今年度を振り返る決算及び事業報告書作成が行われる忙しい時期ですね。

中には、新型コロナウイルス感染症の影響で思うように活動できなかった団体もあるかと思います。来年度に向けて、初心に戻り団体内で活動目的を振り返ると、きっと、メンバーの団結や活動の充実に繋がります。

2/26（日）【参加者大募集！】おやま～るdeダイアログ

2022年度の活動内容をみんなで振り返る「おやま～るdeダイアログ」を開催します！
おやま～るを利用する団体、個人と一緒に楽しく話し合いましょう！

10/29「おやま～るdeダイアログ」の様子

コロナの不安もあったけど
1回目のみんなの“ダイアログ”
「大切にしたい」＆「こんな場がほしい」

- 新しい価値観との出会い
- 人と会う機会が大切
- 年代を超えて話し合える場
- 年齢問わず挑戦

日時｜2/26（日）10:00～12:00
場所｜おやま～る研修室

２０２３年度　ロッカー利用申請に関するお知らせ

多目的会議室にあるロッカーの利用申請の受付を行います。下記事項をよくご確認いただき申請してください。

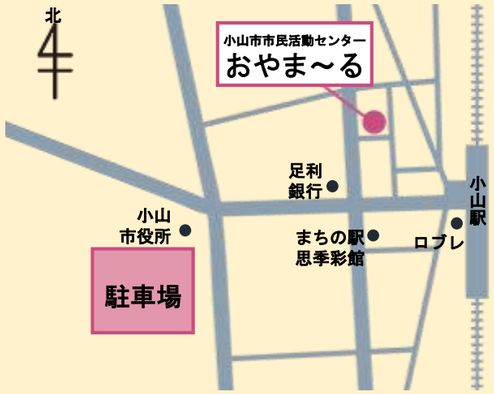
●ロッカー利用可能期間｜
2023年4月1日～2024年3月31日

●申請期間｜2023年2月15日～2023年3月18日

●申請方法｜指定用紙に記入し、窓口に提出する

●抽選の流れ｜
3/25（土）　13時におやま～るで公開にて決定します。
＊出席の必要はありません。
＊抽選終了後、順番に連絡いたします。
＊サイズ別に抽選します。

＊申請は、おやま～るの登録団体の内、社会貢献活動を行っている団体に限ります。
＊1団体につき1ロッカーのみ申請可能です。
＊今年度利用されている団体で来年度も継続利用希望される団体も申請が必要です。
＊継続利用を希望する団体は利用状況などを申請時に確認させていただきます。



おやま～る北側の駐車場利用は、高齢の方や妊婦、幼児連れの方、障がいをお持ちの方、大きな荷物等がある方に限定させていただいています。
一般の方は市役所の駐車場をご利用ください。

地域見える化情報庫

日本において、台風、大雨、大雪、洪水、土砂崩れ、地震、津波、火山噴火等の自然による被害が後を絶ちません。地震に着目してみると、日本の国土の面積は全世界の0.28%しかないのにも関わらず、全世界で起こったマグニチュード６以上の地震の20.5%が日本で起きたものです。災害発生時に安全を確保するために何より重要なのが、正しい情報収集です。小山市では、市民の防災意識向上や災害時の対応、被害情報提供を目的とした「小山市防災ポータル」というサイトを運営しています。サイト内では、避難情報・公共情報・被害情報・気象情報といった、安全な暮らしに関わる便利で的確な情報を確認することが出来ます。

地域見える化情報庫は、社会課題とそれに対する市や団体の取り組みをまとめた情報です。HPに記事を掲載しております。多目的室には20テーマの新聞の切り抜きファイルがあります。

小山市市民活動センター「おやま～る」（指定管理団体：ゆめ評定）
〒323-0025
栃木県小山市城山町3-7-5　城山・サクラ・コモンビル2階
開館時間　9：00～21：00
休館日　年末年始（12/29-1/3）
Tel　0285-20-5562
Mail　info@oyamaru.net
HP　https://oyamaru.net
おやま～るHPはこちら

市民活動センターからのお知らせ

2月と3月の催事

小山市市民活動センター催事は
・HPの申し込みフォーム
・電話(0285-20-5562)
・来館にて受け付けております。

誰ひとり取り残さないために～課題解決ミーティング～STAGE３

課題解決ミーティング3回目！『私たちの小山をもっと良くしたい！』そんな想いで集まった人たちがしてきたこととは？ここでしか聞けない3人のキーパーソンによるトークセッション！「思いをかたちにするには」を一緒に考え、その秘訣を探り、みんなで考えましょう！

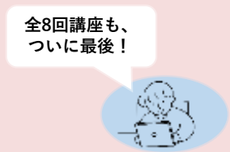
①「SDGs×まちづくりカフェ」トーク
・板倉一平氏（ほけんプロジェ）
・古河大輔氏（〈一社〉カゼトツチ）
トーカー兼コーディネーター
・鈴木隆浩氏（Oyama de 未来カフェ）
②「想いをカタチにする」を考える
多様な人との意見交換の場！

●STAGE３
日　時｜2/12（日）13:30～16:30
場　所｜おやま～る研修室
定　員｜20名程度（申込必須）
参加費｜無料
共　催｜Oyama de 未来カフェ

いつもの書類をパソコンで作れるようになろう！
市民活動・自治会活動のための資料作成講座

総会資料や決算報告書などの作成でお困りの自治会活動・市民活動で活動する方向けの全8回講座。

●８回目　まとめ
日　時｜2/4（土）13:30～15:30（終了後相談会あり）
場　所｜おやま～る研修室
参加費｜無料
講　師｜渡邊吉秀氏（小山市ITボランティア）
持ち物｜パソコン（Windows10、Excel・Word）・USBメモリー
内容問い合わせ｜watton.2.itv@gmail.com（小山市ITボランティア　渡邊吉秀氏）
共　催｜小山市ITボランティア



おやま～るdeダイアログ ～ふりかえりから明日を描く～

ダイアログ（対話）を通して、自分自身の2022年度の活動を振り返りましょう！意見交換したい、交流したい人、大歓迎です！ご参加、お待ちしております。

日　時｜2/26（日）10:00～12:00
場　所｜おやま～る研修室
定　員｜20名程度
参加費｜無料

おやま防災 「第1回　隊員ミーティング」

「おやま防災」初の隊員ミーティングを開催します！2024年度のおやま防災のイベントや小山市の防災について一緒に楽しく話し合いましょう。

日　時｜3/21（火・祝日）13:30～15:00
場　所｜おやま～る研修室
参加費｜無料
申　込｜おやま防災HP

みんなで取り組む災害支援

詳しくはこちら↓

《隊員募集中！》おやま防災の活動とは

災害ボランティアのネットワーク組織です。個人または団体で（隊員）登録し、ボランティアとして小山市内外の災害支援活動に協力しています。

仲間づくり
災害支援に取り組む個人や団体の繋がる場を提供

情報発信
災害支援に関する様々な情報を発信

イベント企画
災害をテーマとした講座やイベント企画

災害支援
災害ボランティア活動支援
被災地支援

教えて！！あなたの団体活動

登録団体紹介

根っこの会

20年間、西口地区活性化のために活動している「根っこの会」を紹介します。会の始まりは、2003年に代表である清水さんが「地域の商店街を未来の世代に残すために何かしなければ！」と思ったのがきっかけでした。その後、商店街の女将さんに設立趣意書を見せて回り、それに賛同した18名と結成しました。

初めの２、3年は、上町会館でクリスマスチャリティバザーを行いました。2007年に、現在の拠点である「まちの駅 思季彩館」が市の管理として開館され、地域を盛り上げるために、会のメンバーも関わり続けてきました。地元で採れた季節の食材を使った手作り弁当は大人気でした。

味噌づくりイベント（2019.3）

クリスマスチャリティイベント（2022.12.4）

2016年から始まった味噌作りは、子どもたちを夢中にさせました。2019年には、ピクニックマルシェに出店して手編み体験や輪投げ体験を提供し、2020年から、高齢者向けの健康イベントも開催しています。

また、手作り体験や季節を感じられる企画を行ってきました。12月恒例のクリスマスチャリティイベントは、小学生がボランティアとして参加したこともあります。1月は初市で豚汁を振舞い、2月は郷土料理しもつかれを販売します。

「根っこの会」という名前は、決して目立たなくても地道に根を張り、強く長く地域とつながりたいという願いが込められています。今後も、この根を未来の世代につなげられるように地域の人たちと育てていきます。

代表　清水 とみ子さん

RUN伴栃木 小山エリア

「入口は認知症、出口は街づくり」をテーマに、認知症になっても住みやすい街を目指しています。RUN伴とは、認知症の人や家族や医療福祉関係者、認知症に接点がなかった地域住民が共（伴）に全国をたすきで繋ぐイベントです。

2014年に現エリア長の鈴木さんは、福祉の仕事をする中で、RUN伴に初参加しました。当初、栃木県にはRUN伴の開催がなかったため、栃木の開催を熱望し、栃木と埼玉（たすきを繋ぐ場所）に支部を作りました。

2015年の初開催では、約30名が集まり、宇都宮から大宮を通過して町田まで、2日間かけてたすきを繋ぎました。2023年までの8年間、数々のトラブルもありましたが、挑戦もしてきました。

2019イベントゴール@思季彩館前

Twitter
@runtomo_OSarea

笑顔で「RUN伴」参加（2019年）

2017年には、（栃木）県庁と（宇都宮）市役所を貸し切って約300人規模のパレードを実施し、2019年には、参加者1000人超えでRUN伴を開催しました。2020年と翌年は、リアル開催を断念しましたが、違うカタチの繋がりを模索し、笑顔の写真募集とオンラインで座談会を実施しました。2022年は、小さくてもリアルに拘りイベントとハイブリット開催をしました。イベント実施の本質は、そこに至るまでの準備にあります。募集段階からご縁が始まり、関わった方々を繋ぎ、顔の見える関係性を築いていきます。

ネガティブな考えが浸透している認知症ですが、笑顔で歩き、喜び合うこともできます。いつか、当事者、支援者を超え市民を巻き込んだ「小山だけ」のイベントを開催したいです。

小山エリア長　鈴木 隆浩さん

コミペ「おやま～る」は小山市市民活動センターの登録団体（代表者）にお届けしています。また、小山市内の公共施設や栃木県内の中間支援センターなど市民活動に携わる方が出入りする場所に置かせていただいています。